

414
A 3398

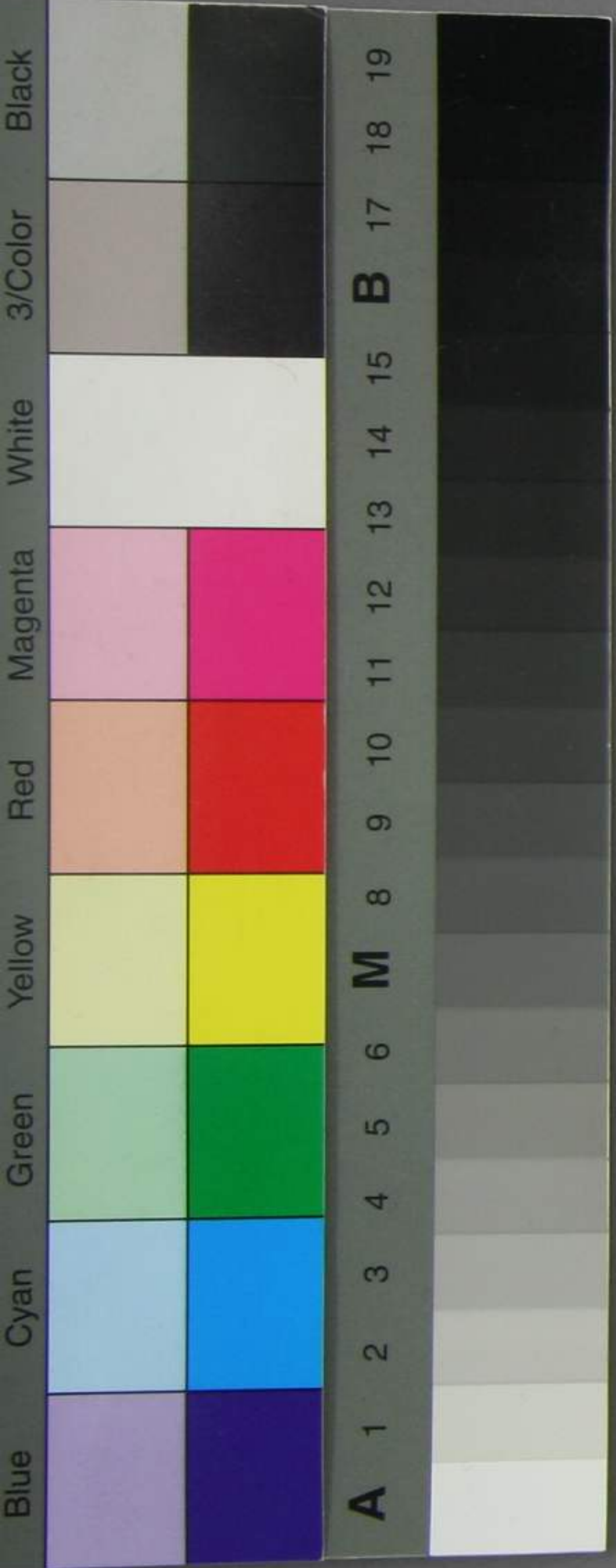


大藏卿大隈重信閣下ニ呈ス昇職謙太郎
 謹テ惟ミルニ貨幣ノ用タル野蠻ノ域ニ
 在テハ以テ食ス可カラス以テ衣ル可カ
 ラスト雖凡稍開明ノ國ニ於テハ大ニ然
 ラス其用至大至廣國威ノ據テ皇張スル
 所人ノ據テ生活スル所一トシテ是レ
 之ニ據ラサルハナシ故ニ聚レハ即富強
 散スレハ即貧弱只其貧富スル所以ノモ

我力
 金銀貨幣ノ海外ニ濫出スルノ儀ニ

甘祖
 稅案七等出仕柳谷謙太郎謹テ書テ

大正十一年四月
 大隈重信侯爵郵寄贈



ノハ其貨幣發行方法ノ當ヲ得ルト否ラ
 サルトニアリ豈慎マサルヘケシヤ卑職
 謙太郎任ヲ横濱税関ニ辱フニ項者金貨
 ノ輸出大ニ其額ニ過タルアクシカト憂
 苦罷在候故ニ今其原ヲ塞カスニハ真貨
 ハ追日外國人民ノ有トナリ我人民ハ幣
 ニ其紙幣ヲノミ擁スルニ至ラン實ニ國
 家貧弱ノ係ル所苟モ後慮アルモノ、坐
 視傍觀ス可キモノニアラサルモノナル
 ラ以テ閣下ノ聰明夙ニ畫策アツテ豫防

ノ方法既ニ已ニ成レリトハ奉存候得共
 聊カ我税関ニ就テ鄙見ヲ述シ請フ閣下
 ノ少シノ之ニ傾耳アラシムテ其鄙見ノ
 第一義ナルモノハ真正ナル比較表御確
 定アリテ各國公使ト協議ヲ竭キセラレ
 輸入物貨ノ價位ヲ盡ク金貨ニ算較シ金
 貨ヲ以テ其本位トシ之ヲ海關稅ニ收
 徵ス可キ事卑職謙太郎思フニ海外ニ溢
 出スル原因恐クハ職トシテ金貨ノ本位
 シ占メサルヨリシテ流出致サンカト存

候個ハ別冊ニ詳論セリ其第二義ナルモ
 ノハ第一義ノ如ク我金貨ヲ以テ海關稅
 ノ本位貨幣ニ御改定金之尚一歩銀等ヲ
 以テセンニハ大ニ第九拾三号御布告ニ
 抵觸シ且暗ニ我稅額ヲ減スル事卑職謙
 太郎思フニ此御布告ハ固ヨリ内國人民
 ニノミ令セラレシモノナリト雖此恐ク
 ハ舊貨ヲ鑄換スルノ期ヲ遲緩ナラシメ
 外商ヲシテ好ヲ逞フセシムルノ媒妁々
 ランカト奉存候何トナレハ洋銀百弗ノ

一分銀ハ三百十一個ニ比較ス可キノ定
 則ナリト雖此一分銀ノ市價常ニ卑フコ
 テ此定較ニ及ハサル若于況々今回ノ御
 布告ノ如キ此定較ヨリ下ル丁又更ニ若
 干況々我人民海關稅トシテ納ムルヲ得サ
 ルヲヤ是レ其御布告ノ主旨ナル公納及
 ヒ造幣寮へ致スノ道ヲ隱然杜絶シ外國
 奸商ノ手ニ歸セシムルノ道ヲ開クニ殊
 ナラス其的例ハ是迄洋銀ハ勿論我一圓
 銀ノ如キ貿易ノ通貨トシテ適用ス可キ

ノモノアリト雖氏之ヲ納税ニ充ルモノ
 甚ク少クシテ其一分銀ヲノミ收納スル
 ヲ以テ知ルヘキナリ且我海關税ナルモ
 ノ貨物ノ元價百分ノ五ニ基シ之レカ税
 額ヲ御制定ナリシモノナリト雖氏目今
 ニシテ之ヲ既往ニ徴スレハ全ク百分ノ
 ニヲモ保ツテ能ハス是レ古今物價ノ差
 アルニモ今之ヲ如何トモスルコトナ
 ト雖氏身職謙太郎按スルニ收税專ラ壹
 分銀ヲ以テスルヨリ生ズル亦少ナカラ

スト存候故ニ今第一義ノ如ク金貨ヲ本
 位トガサシニハ第二義ノ如ク壹分銀ハ
 奸商掌中ノモノトナルモ我税額ヲ増減
 スル能ハス是レ一舉兩得ニシテ至急ニ御
 改正アラサル可カラサル儀ニ奉存候此
 他尚オ鄙見アリト雖氏我税關ニ關スル
 ノ少ナルヲ以テ爰ニ闕如ス且此一事ニ
 就テハ本關御雇米人某ニ顧問セシ一小
 冊アリ併テ閣下ニ呈ス願クハ閣下之ヲ
 裁決アラシメテ其實際施行ノ方法ニ至

テハ閣下ノ後命ヲ是レ仰シ頓首ニ恐
懼謹言

明治七年九月

右

柳谷謙太郎

大隈大藏卿閣下

昨日貴下ヨリノ御依頼ニ應シ日本
貨幣輸出上ニ付聊注意ノ庶ヲ左ニ

書記ス

本文
中註脚
ハ譯者
本主ニ
質ニテ
其意ヲ
補ヘシ
ナリ

日本貨幣ノ輸出ヲ見ルニ通常臆度セラ
ル、ヨリ一層多ク輸送スヘシト思ヘリ
故ニ目今右輸出ニ注意セララル、ヨリモ
尚一層ノ注意アラサルヘカラサルナリ
近日該港ヨリ解纜セレニ汽船ニテ貳百
萬圓餘ノ價額アル貨幣ヲ輸送セリ是レ
只横濱一港ニシテ特ニ一時ノ額ノ

ニ驚愕スヘキノ例ニシテ丁寧熟考ニ
 セサルヘカラサルノ一事ナリ今之ヲ禁
 スルノ方法ヲ用ヒス或ハ直キニ該事ニ
 關涉セス或ハ凡テ隨意ノ法則ヲ用ヒス
 シテ之ヲ改正スルハ特ニ日本政府ニ屬
 セリ何ニトナレハ此等ノ手段ヲ施スモ
 全ク無益ニ屬シ或ハ其當ヲ得スニテ却
 テ弊害ヲ生セシトハ既ニ已ニ數百年來
 幾多カ其實驗アレハナリ故ニ今之ヲ改
 正セニニハ帝國ノ通用金タル日本貨幣

ヲ基礎トシ算計ニ得ヘキノ方法ヲ講究
 採用セスニハアルヘカラス
 目今本位貨幣ナルモノハ墨西哥銀ニシ
 テ此銀貨ノ本位ヲ占有セル間ハ金圓十
 ルモノ殆ニト他ノ高貨ト同ナル地位
 ヲ占メ貿易ノ浮沈及ヒ海外バニク或ハ
 他ノ相庭人ノ煽動ニ從テ其高下ヲ受ク
 ヘシ
 今假リニ金圓ヲシテ該國ノ本位貨幣ト
 セハ自他ノ貨幣ハ海外高貨ノ如ク一

ノ需要ト市場ノ景況トニ依テ高下
 モ金圓ハ依然トシテ變動スルトナカ
 ハシ
 右ノ如ク為サニ為メ不易ノ本位ヲ國貨
 ト確定セララルハ固ヨリ政府ノ目的ニ
 シテ既ニ莫太ノ入費ヲ厭ハズ大阪ニ造
 幣寮ノ設立アル拙者ノ能ク知り能ク信
 スル所ナリ然レモ一二政府ノ定例ナル
 モノヲ見ルニ全ク此趣旨ト相及シタル
 成功ヲ得ニ為メ設ケラルモノト相見

工是レ拙者ノ最モ怪ミ最モ疑フ所ナリ
 金圓ヨシテ兩替相場ノ本位定量トシテ
 之ヲ外國人ニ領知セシムルハ固ヨリ緊
 要ノトト雖モ若シ政府自カラ其貨幣ヲ
 放棄シ或ハ本價ヲ減シテ之ヲ取ルカ如
 キ自ラ貿易中毎次之ニ關係セル相場師
 ヲ率ヒ其間ヲ窺ヒ其機ニ乗セシムルナ
 リ豈ニ本位定量ト為ント欲スルモ何ヲ
 以テカ得可ケンヤ
 物品ヲ賣ルトコロノ外國人若シ金圓ヲ

得ルモ何ノ用ヲ為サニ故ニ之ヲ受クル
 片ハ直千ニバンクニ預ケ置キ他日送金
送金ニシテ
 仕送遣仕送等總金テ他所トシテ用ヒ得ルノ
 通用金ナル墨斯哥銀墨斯哥於テハ等
ヲ取組テ通故ニ墨斯哥銀ト之ヲ交換セ
 ント欲スルニ方テハバンクノ兌換法曖
 昧タリト雖元勢ヒ之ヲ交換セサル可カ
 ラサル故ニ右バンク掌管人或ハ相場人
 等之ヲ輸出スルノ運賃保險牙錢溶解入
 費ヲ換ヘ主ニ拂ハシメ加之其廣太ナル

ル裨益ヲ失ナフカ如キ金圓ノ價位ヲ減
 スル為ノ容易ニ一致結合ニ如斯クシテ
 既ニ充分ノ額數ヲ輸出スレハ其價位從
 テ高騰スルナリ何トナレハ竿金或ハ他
 塊ノ形状ニ之ヲ變シテ無論ニ運賃牙錢
 保險等ノ出費ヲ籠メ再輸入スレハナリ
 然リ而シテ右等ノ金塊造幣寮ニテ又金圓
 ニ鑄造ス是レ貿易臨時ノ為メ此金圓ヲ
 便スル後數週日或ハ數月ノ間ニ唯ニ相
 庭人ニテ再ニ輸出セラルルカ為メ

ナリスノ如クシテ此計策漸ク進マハ運
 賃牙錢保險溶解入費及ヒ輸送人ノ占ム
 ル益分ノ為ノ每次該國ハ百分ノ三乃至
 五ヲ亡ナフナルヘシ
 今直キニ政府ノ着手セラルヘキ最要ナ
 ル處置ノ一ハ金銀圓ヲ稅關ニ於テ直キ
 ニ墨斯哥銀同等ニ受クヘキ事ナリ
 蓋シ銀圓ハ同等ニ受領セララルト雖
 金圓ノ受領ニ至テハ一分ノ減價アリ然
 レモ外國商人ノ此事ヲ認知スルモノ甚

タ稀ナリ何トナレハ外國商人等ノ如キ
 ハ之ヲ意トスルモ其益スルトコ口甚々
 微ニシテ其煩累却テ其益スル所ヨリモ
 多ケレハナリ
 銀圓全一ハ墨斯哥銀同等ニ受領セラル
 ト雖モ五拾錢四半或ハ其以下ノ貨幣
 ニ至テハ受領スルナシ金圓ハ納稅ノ片
 及ヒ願書面ヘ一分減價ト書載セシキノ
 ミ本價ヨリ一分ヲ減レテ受領ス然レモ
 上屋及ヒ借庫ノ賃料ニハ金圓ヲ受ケス

國家ノ要事ヲ扱フニ斯ノ如キ些少ナル
 且煩ハシキ差別ヲナスノ政府ハ害ヲ醸
 スノミニ止ラス實ニ笑ヲ可キノ太甚モ
 ノナリ一方ニテハ本國ノ本位通用金ヲ
 造ランカ為ノニ數百萬圓ヲ造幣寮建築
 ニ費ヤシ一方ニテハ一ヶ月間ニ恐ラク
 ハ洋銀十弗許ニ總計スルノ借庫料一
 分ノ一ヲ減價セシ為メ政府自カラ自國
 ノ貨幣ヲ放棄ス若シ外國商人自己ノ墨
 西哥銀ヲ圓貨ニ交換シ其後半圓及ヒ金

圓ナルモノ借庫稅トナラサルヲ知ラハ
 自然不信ヲ懷キ之ヲ輕蔑シ且一圓五圓
 十圓二十圓ノ間ニ於テモ亦銀貨ノ一圓
 ノ半圓ニ於ケルカ如キ差アルヤ否ヤヲ
 知ラサルカ故ニ以テ圓貨ニ觸レサルヤ
 ウ自カラ注意シ以テ壹分銀或ハ墨斯哥
 銀ヲ以テ拂フナルヘシ
 今假リニ稅關ニ於テ金銀トモテ各種ノ
 圓貨ヲ同等ニ取ルトセハ外國商人圓貨
 ヲ有スルヲ利益ト認メ或ハ否ラサルモ

其輸入品ノ税ヲ拂フニ圓貨ノ幾分ヲ有
 ツモ利益ナルヲ知ルヘシ且圓貨ノ用ヲ
 ナサ、ル為メニ墨斯哥銀ニ非ラサレハ
 其物品ヲ賣リ得サルトコロノ許多ノ外
 國商人モ其高貨ノ幾分ヲ圓貨ニテ販賣
 スルヲ好ムニ至ルヘシ

税銀ノ為メ金圓ヲ一般希望スレハ從テ
 各バンクニ於テモ金圓ヲ受領シ及ヒ預
 ケ金ノ内請戻サル、ノ節又之ヲ拂ヒ出
 墨此迄バニクニハ金圓ヲ預ルモサ、ルヲ
 斯哥銀ニテ拂出スラ例トスサ、ルヲ

得サルノ勢ニ至ルヘシ是恰カモ鑄尖ノ
 進入スル如クニシテ衝力之ニ發シ此衝
 カ今現ニ動作ヲ有スル他ノ勢力ニ結合
 シ以テ金圓ヲシテ暫時ニ兩替ノ本位定
 量トナラシムルニ至ルヘシ

税關或ハ他所ニ於テ受領セラレタル後
 直チニ循環シテ現ニ在ルトコロノ古壹
 分銀貳分金壹朱金等ヲ悉皆鑄溶スルモ
 亦政府ノ任ナリ而シテ此事既ニ行ハレテ
 政府新貨幣ヲ發出スレハ實地行ハル、

夕ケ速カニ舊貨幣ヲ集ムヘシト思慮ス
ヘキハ極メテ當然ノ事ナルヘケレハ然
レハ税關ニ於テ絶ヘス拂ヒ納ムルトコ
ロノ壹分銀ノ無數十ルヲ以テ熟察スル
ニ拙者ニ於テハ其速カニ集ムヘシト
考定ハ殆ント望ヲ絶タシム
金圓ヲ同等ニ受領セハ自カラ舊貨幣ヲ
大阪造幣寮ヘ集メシムルノ運ヒニ至ル
ヘシ然レハ尚政府ニ於テモ亦官ヘ一旦
受領シタル旧貨幣ハ再ヒ流通セシメサ

ルヤウ注意為サ、ル可カラス
目今(バンク)及ヒ大相庭人ヲ記セス(本港
ニ於テ兩替相庭ノ浮沈ト壹分銀等ノ賣
買ニ由テ活計ヲ営ムトコロノ支那兩替
舗概スルニ凡ソ三十舗アリ其賣買スル
ノ壹分銀ハ唯税關ヘ納税スルモノ、為
メノミナリ故ニ之ニ由テ考フレハ該銀
收納ノ後或ル方法ヲ以テ再ヒ右兩替舗
ニ之ヲ復スルノ方法アル知ル可キナリ
右總兩替舗ノ店主及ヒ外國館使役ノ支

那掌管人又ハ番頭ト稱スル支那人等概
 シテ一樣ナラサルモ常ニ一致シテ事ヲ
 為シ且親シク市中ノ事情ヲ充分熟知ス
 ルカユヘニ毎ニ機會ヲ得ルニ適シ加之
 墨西哥銀ト比較セシ如ク通用金ノ價直
 ヲ高下スルコトニ於テ極メテ毒惡ナル
 勢力ヲ用フルニ適セリ是レ即千斯ノ如
 キ數多ノ支那人ノ活計ヲ為シ或ハ治計
 ノ過半ヲ為スノ方法唯此ニ是ヨルノミ
 ナリ

稅關ニ於テ貨幣ヲ同等ニ用ヒ且壹分銀
 及ヒ他ノ旧貨幣ヲ除去セシナラハ右等
 店舖ノ數直千ニ減シテ其多クモ現數ノ
 半ハニ超ヘサルヘシ然リ而シ日本貨幣
 ナルモノ全ク該國ノ本位通用金ト定メ
 ラル、ノ時至ラハ唯僅カニ二三舖ヲ餘
 スヘシ而シ此者等ハ他國ニ於テ該商人
 ノ為ス如ク旅人等ノ持來スル外國貨幣
 ヲ買求シ以テ正業ヲ営ムヘシ
 金圓ヲ同價ニ受領スルカ為メニ政府ニ

歸スルトコロノ損失ハ些少ニシテ本港
 收納高壹百萬弗トシ若シ初年ニ該額ノ
 五分ノ三金圓ニテ收納セハ其額六拾萬
 圓ナリ而シテ此一分減價ナルモノ僅カニ
 六千圓ナリ若シ壹百萬圓ノ全數圓貨ニ
 テ收納セラル、モ僅カ拾萬圓ニシテ夫
 カ為ノ生スル利益ト比較スレハ笑フヘ
 キノ少數ナリ
 一方ニテハ其事僅カニ數千圓ノ損失ナ
 レハ大阪造幣寮ナルモノ其本莫太、出

費ト機械ノ常ニ要スル多費ノ修覆反
 外國人本國人ニ拂渡サル、大金額ヲ概
 シテ之ヲ考フルハ其益アルヤ否ヤト
 ハ實ニ要論タリ
 然リト雖モ現今稅額ノ大半ハ墨西哥銀
 ニ付三百十一个ノ割合ヲ以テ壹分銀ニ
 テ收納セラル、カ故ニ政府ニ於テ即時
 拾萬圓ノ損失アルトナシ況ヤ六千圓ノ
 損失アラサルヘシ
 今壹分銀ノ價甚タ低下ナルカユヘニ諷

銀ヲ除去セサレハ年々政府ノ損失圓貨
ヲ同等ニ受領スルカ為メ生スル損失
ヨリハ尚大ナルヘシ

今一層此論説ヲ詳解セハ其事甚夕遙カ
ニシテ且熟考ヲ要スヘキノ主意モ亦甚
タ多シ

右縷述スル所其大畧ノミ若シ其意ノ明
カナラサルアラシニハ再ヒ御下問アラ
シト拙者ノ希フ所ニ候也謹言

ルイスウエルセシフル手記